

令和5年度採択協働提案事業(令和6年度実施)の評価結果及び事業の継続について

- 👉 令和5年度に採択した協働提案事業に関して、令和6年度の事業実施状況に対する事業評価を「中央区協働推進会議」において行った。
この評価結果を踏まえ、令和7年度への事業継続についての可否を決定する。

概要

(1) 事業名及び団体名(担当部課)

事業名	「女性防災リーダー養成事業」
団体名	流山防災まちづくりプロジェクト
担当部課	総務部防災危機管理課

(2) 評価方法

団体及び当該事業の担当部課から提出された「実施報告書」と「事業実施報告会」(令和7年1月15日(水)実施)の内容に基づき、令和7年2月17日(月)に中央区協働推進会議において評価を行った。

(3) 評価基準

- ①事業の成果に関する評価
 - ア 事業目的の達成度
 - イ 事業実施における効果性・効率性
 - ウ 受益者の満足度
- ②協働の取り組みに関する評価
 - ア 団体及び区の役割分担
 - イ 相互理解・パートナーシップ
- ③総合評価
 - ア 事業継続の判定

令和5年度採択協働提案事業(令和6年度実施)の評価結果及び事業の継続について

(4) 評価結果

別添「中央区協働提案事業評価結果報告書」のとおり

(5) 事業の継続

当該事業については、「継続すべきである」と評価されたことから、令和7年度についても継続実施するものとする。

【中央区協働推進会議委員構成】 (令和7年2月17日現在)

職名	委員名	役職等
会長	瀧澤 利行	茨城大学教育学部教授副学部長
副会長	山岸 秀雄	協働ステーション中央センター長
委員	仲本 美央	白梅学園大学子ども学部子ども学科教授
委員	後藤 麻理子	(認定特活) 日本ボランティアコーディネーター協会事務局長
委員	関口 利子	日本橋防火防災女性の会顧問
委員	和泉 純治	東京商工会議所中央支部事務局長
委員	古田島 幹雄	中央区社会福祉協議会事務局長
委員	生島 憲	企画部長
委員	濱田 徹	区民部長

※事務局：区民部地域振興課長、コミュニティ支援係、協働ステーション中央にて構成

中央区協働提案事業評価結果報告書 <中央区協働推進会議>

事業名	女性防災リーダー養成事業		
実施団体	流山防災まちづくりプロジェクト		
担当課	総務部防災危機管理課		
目的	地域拠点の運営などにおいて、女性が対等に意見ができる女性防災リーダーを育成する。そのために、中央区における防災・災害の全体像、実際の避難所運営の知識や多様性・男女共同参画の視点を修得する。		
事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・区内在住・在勤者、防災拠点運営委員会委員を対象に男女共同参画の基本を学び、防災に男女共同参画の視点が大切であることを知ることを目的に講演会を実施した。 ・区内在住・在勤者、防災拠点運営委員会委員を対象に防災・災害の全体像や実際の避難所運営の知識を学び、地域の拠点運営などを先導するリーダーとして活躍できる女性を育成することを目的に全5回の養成講座を実施した。 		
実績	講演会：令和6年5月11日(土)10:00～12:00 養成講座 令和6年6月22日(土)・7月6日(土)・7月20日(土)・8月3日(土)・8月24日(土) 各日10:00～12:00	事業費	517千円
評価	A:高く評価できる B:評価できる C:どちらかという評価できる D:あまり評価できない		
1 事業の成果に関する評価	推進会議評価		
事業の目的は達成できたか	A		
<p>本事業は、社会的に防災意識が高まる中で、中央区のみならず地域住民ニーズに合った事業であり、講演会、養成講座ともに一定の参加者を得て、参加者の熱量が感じられ充実した内容で参加者の満足度が高く進められたとの報告を受けたことから、所期の目的は達成されたと判断される。本事業は本来の目的である女性リーダーの育成というゴールに向けて、何がどこまで達成できたのかの評価が重要であろうと思われる。また、避難所運営などに関してのより具体的なスキルの修練をどのような形態と内容で行うかについてのコンテンツの構築が望まれる。</p>			
単独で実施するより効果的・効率的な事業の実施ができたか	A		
<p>実績を有する実施団体と担当課との連携としては円滑に進んでいると理解される。今回誕生した女性リーダーの卵たちが、実際の生活の場(地域)において平時から災害時に向けて活動していくためには、区や地域防災組織など、緊急時にリーダーシップをとる側の意識や参加への考え方につき、実施団体と区の担当課とが認識を共有して、効果的・効率的な事業を実施していくことが望まれる。</p>			

<p>受益者の満足度はどうであったか</p>	<p>A</p>
<p>講座全体の満足度の高さがうかがえ、高く評価できる一方で、参加人数が徐々に減少にあったことには、何らかの要因があったのではないかと考えられ、原因の検討が望まれる。今後、この満足度の高さを維持することと、参加者をコンスタントに維持していくためにはそれなりの工夫が必要となると思われる、実施団体と担当課とで情報を共有して解決することが望まれる。</p>	
<p>2 協働の取り組みに関する評価</p>	<p>推進会議評価</p>
<p>団体と区との役割分担はうまくできたか</p>	<p>A</p>
<p>実施と関係調整という役割分担の範囲では良好であったと判断できる。ただし、協働とは、相互影響的関係性を前提とするので、この取り組みによって、相互にどのような活動や業務の展望が開けたかという点が重要である。協働が単なる業務委託とは異なるものであることをさらに理解して臨む必要がある。団体および担当部局、地域振興課と協働ステーション中央がそれぞれの視点から役割の確認をすすめてほしい。</p>	
<p>協働の推進につながったか (相互理解・パートナーシップは深まったか)</p>	<p>A</p>
<p>この分野における協働の推進は斬新であると評価できる。今期を終了として考えるのではなく、今後のプロジェクト展開を視野に入れ、互いに区のイベントなどに積極的に参加できるように働きかけていくなどの発言も見られたことが高く評価できることとあり、互いの協働姿勢がそこに現れていたと考える。さらに、相互にパートナーシップを深めながら、発展した取り組みを期待したい。</p>	
<p>総合評価コメント</p>	
<p>継続すべきである</p>	<p>一部修正を要するが継続すべきである 再検討を要する</p>
<p>「女性の、女性による、女性のための防災・災害対策」事業は、男女共同参画を掲げながらも圧倒的に数が少ない女性のこの方面での参加を促す事業として評価でき、継続することが望ましいと判断する。今回は意欲的な女性を集めることができ、そうした女性たちの交流によって様々な波及効果が見られ実施した内容が他地域の活動にも影響を与えたとの報告があり、よい講座であったことが窺える。具体的な災害事例を各回に取り入れながら講座ができたことは、参加者にとって自らの身に起こりうることを想定することが可能となり、アクションプランが作成しやすかったのではないかと考える。今後具体的なリーダーシップの内容に踏みこんだ講座の開催などが望まれる。なお、各回ごとに人数が減少していく様子があったことは何らかの工夫が必要な点である。</p>	